

「多言語学習の取り組み15年

記念フォーラム

甲南大12日開催

「使える外国語」の習得を掲げて94年に設立された甲南大国際言語文化センターが15周年を迎え、12日に記念フォーラムを開く。ここで学んだことを生かして国連開発計画や国際協力機構など国際舞台で働く卒業生も多く、所長の胡金定教授(53)は「世界の

最前線に立つ人材を育てるため、今後も大学の外国語教育を常に改革していきたい」と話す。

「読む」ことが中心で実践的な語学力が身につけにくい日本の外国語教育への反省から、同センターは「聞く」「話す」を含む、生きた外国語を学べる場を目指した。第1外国語の英語に加えて仏独、中、韓の計5カ国語が4年間通して学べる。

初級、中級、上級に分かれた1クラス15〜35人程度の少人数教育が目玉。2〜3割が進む上級まで履修すれば、国際社会で通用する語学力が身に着くという。高性能の液晶プロジェクターを配備したマルチメディア教室11室のほか、40台の学生用コンピュータを設置して学内外をネットワークで結んだ教室もあり、21人の教員のほか、170人の非常勤講師が授業にあたる。

こうした取り組みは「大学ランキング」(朝日新聞出版)の外国語に対する学生の満足度で全国10位に入る

など、広く注目を集めている。15周年記念フォーラムは12日午後0時45分〜同4時10分、神戸市東灘区岡本8丁目甲南大5号館511講義室で。芸能リポーターの井上公造さんが「日本文化を外国にどう伝えるか——映画・笑い・歌の場合」をテーマに講演。続いて甲南大教授や准教授計5人が「大学における外国語教育の現在と未来」についてパネル討論。定員300人。無料。問い合わせは同センター(078・435・2326)へ。(八木正則)